

第 107 回 全国健康保険協会千葉支部評議会の概要報告

開 催 日	令和元年 7 月 16 日 火曜日 14 : 30 ~ 16 : 00
開 催 場 所	日本生命千葉ビル 4 階会議室
出席者	飯田評議員、一法師評議員、小賀野評議員、鈴木評議員、 中野評議員、萩原評議員、宮本評議員（五十音順）
議 題	1. 平成 30 年度全国健康保険協会決算（見込み）等について 2. 令和元年度の健康づくり（コラボヘルス）の取組について 3. その他
議 事 概 要 (主な意見等)	
<p>開会挨拶</p> <p>本日は大変お忙しい中、第 107 回千葉支部評議会にご出席いただき誠にありがとうございます。</p> <p>本日の議題はご案内のとおり 3 点であります。2 点目の議題となっている千葉支部のコラボヘルスについてですが、コラボヘルスという言葉はちょうど 2 年前に厚労省がデータヘルス推進のために使い始めましたが、我々に当てはめれば、医療保険者である協会けんぽと加入事業所が互いに協力し合い、従業員の健康を維持・向上させるためのプランを作り、実践していくことです。内容については、各支部の創意工夫が反映されます。</p> <p>千葉支部では、おそらく他支部があまりやっていないことにチャレンジしています。コラボレーションとは、共に働く、合作、共同作業であり、千葉支部職員と事業所の役員・従業員とが直接話し合い、試行錯誤を重ねながら実践していくもので、手間暇がかかり、粘りと根性も必要な取組がメインとなっています。初めこそ手間暇がかかりますが、慣れてくると我々の支援は必要最小限で済むようになると思います。また、情報のやり取りのパイプができることで、より効果的・効率的な支援が可能となります。</p> <p>このように最小限の支援で自律的な取組ができるモデル的な事業所を作り上げ、他の事業所への横展開につなげていきたいと考えています。現在、第 1 号に取り掛かっているところですが、今後様々な形・パターンでできることを増やしていきたいと思っています。</p> <p>これらの推進には、事業所トップ（社長や労務担当役員など）が、従業員の健康づくりがいかに重要か理解していることがポイントとなります。トップの考えが前向きで堅固なものであれば、我々は様々なメニューを考え、担当を付け、あらゆる形での支援が可能です。</p> <p>コラボヘルスは協会けんぽの最優先取組事項であり、戦略的保険者機能の強化・発揮における中心項目といえます。協会けんぽ加入事業所でそのようなマインドが強い経営者がいらっしゃいましたら、評議員の皆様のご紹介を是非お願いいたします。</p> <p>それでは、本日もどうぞよろしくお願いいたします。</p>	

議事概要

1. 平成 30 年度全国健康保険協会決算（見込み）等について

- 資料 1-1：協会けんぽの平成 30 年度決算見込み（医療分）について
- 資料 1-2：平成 30 年度の千葉支部の収支について
- 参考資料 1：平成 30 年度全国健康保険協会決算関係資料
- 参考資料 2：平成 30 年度の支部の運営状況等について

《主な意見・質問等》

◆健康保険料率の 10%維持については、中小企業団体中央会の専門委員会で議題になる。事業経費に占める健康保険料等の社会保険料は、経営者にとって重い負担となっている。10%を維持しないとやっていけないという資料や広報が不足していると感じるが、具体的にどのような周知を行っているのか。

会社にはダイレクトメール等がたくさん届くので、埋もれてしまう。また、担当者レベルで情報が止まり、事業主まで情報が届かないこともある。《事業主代表》

⇒料率変更の時期に、日本年金機構からの納入告知書等同封するなどの方法で全事業所にチラシやリーフレットをお送りしています。

今後、広報紙の内容を工夫し、必ず事業主に見てもらえるようにしていきます。

◆準備金残高は、参考資料 1 の財務諸表（貸借対照表）では、どこに計上されているのか。

《被保険者代表》

⇒貸借対照表の項目における準備金と当期末処分利益の合計額が準備金残高となります。

◆約 10 年で準備金が底をつくというシミュレーションがなされているが、全国と千葉は同じとなるのか。また、加入者数および賃金の伸びについて千葉の推移はどうか。

これまでの単年度収支や準備金残高等の推移をみると、影響を与えた要因は複雑で、健康保険料率を維持すべきか等について、素人は簡単には判断できない。ただ、料率が頻繁に上下するとなれば批判は集まるだろう。なるべく変動しないよう「稼ぐとき稼ぐ」ことが大事だと考える。そのためには、加入者数の増加が重要となってくるが、見通しはどうなのか。《学識経験者》

⇒準備金については全国と同様の見込みとなります。

加入者数の伸びは、千葉は全国と比べ、非常に高い伸び率で推移してきました。事業所を健康保険へ加入させる適用業務は日本年金機構の業務であり、ここ数年の加入者数の増加は、日本年金機構が適用業務を強化していたことが要因です。また、見通しとしては、今後財政が悪化した健康保険組合が解散し、その加入者が協会けんぽに流れてくることが予想されます。

2. 令和元年度の健康づくり（コラボヘルス）の取組について

■資料2：令和元年度の健康づくり（コラボヘルス）の取組について

《主な意見・質問等》

◆職場の健康づくり支援事業は非常に評価している。実際、自社へも訪問いただき、健康課題の実態が分かり助かった。しかし、会社の幹部層だけでなく衛生管理委員会など、より多くの社員の前で説明するほうが（事業の）波及力があるのではないか。協会けんぽの認知度向上にもつながる。《学識経験者》

⇒現在は、会社のトップにご理解いただき、社内で取組を進めてほしいという思いから、幹部層への訪問を中心に行っていますが、協会けんぽの職員を派遣し、事業所の健康課題に応じて、社員に向けて講義をすることも可能です。

◆事業所訪問は、訪問先事業所の従業員数に下限を設けているか。《事業主代表》

⇒設けていません。従業員1人や2人の事業所でも訪問しています。

◆事業所へのフォローアップとして、歯科検診事業を検討しているようだが、是非早急に始めてほしい。歯科検診並びに口腔ケアの重要性は、近年非常に話題になっている。「医者がやらなくて後悔した健康づくりランキング1位」という記事も目にした。《学識経験者》

3. その他

■資料3：各種審議会等への参画状況について

《主な意見・質問等》

◆平成30年度第2回千葉県国保運営協議会の支部長発言ののち、動きはあったか。国民健康保険への働きかけも重要であるとする。《学識経験者》

⇒現在、働きかけを行っているところです。

特記事項	なし。
------	-----

次回の開催は令和元年10月の予定。